

# 第 1 回養徳学舎活用検討会

資 料

# 養徳学舎の概要

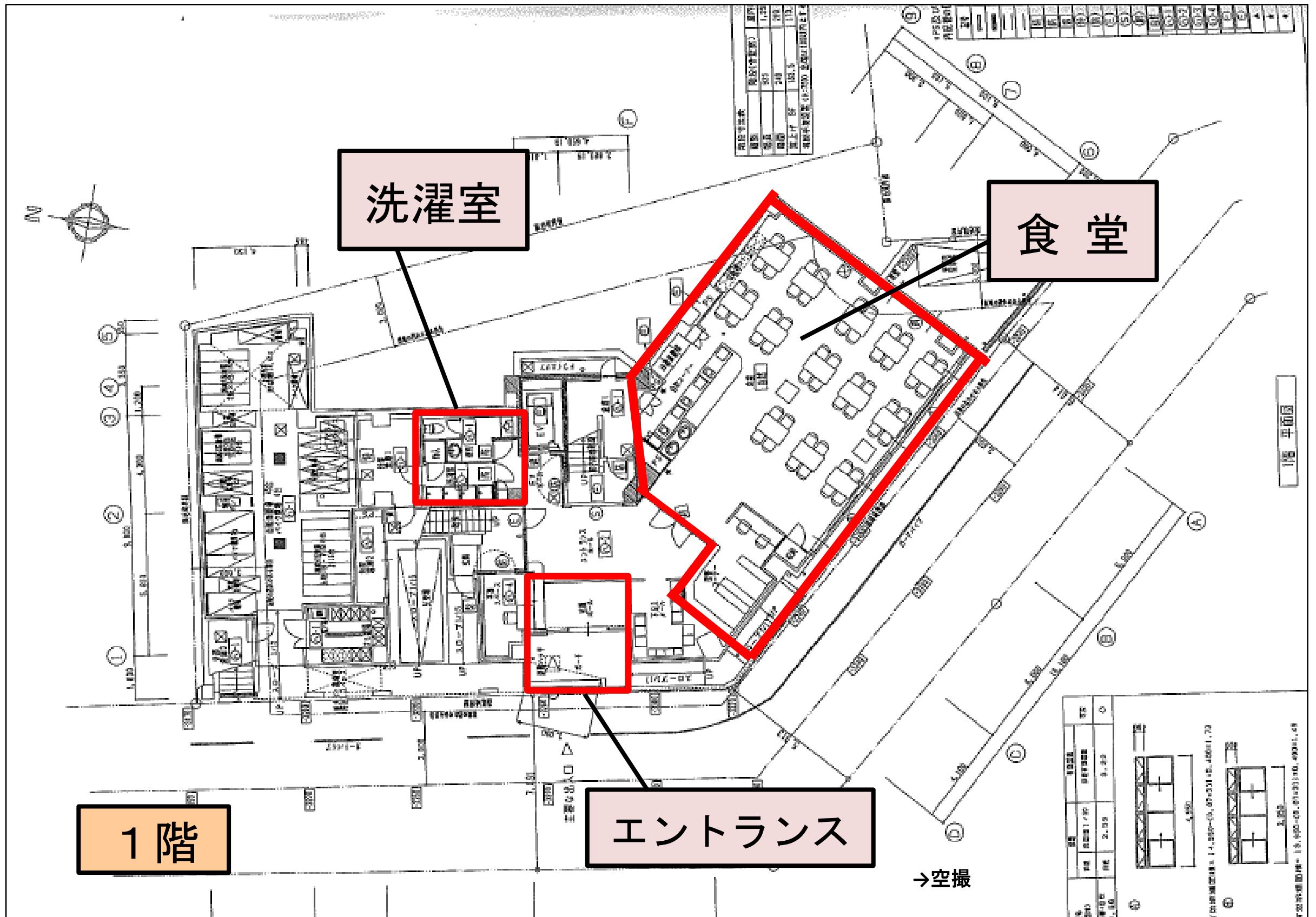
- ◆ 所在地：東京都文京区小日向4-3-3
- ◆ 構造：鉄筋コンクリート造 地上4階 地下1階
- ◆ 収容定員：50名
- ◆ 施設及び設備：
  - ・ 寮 室…個室(約12m<sup>2</sup>) ベッド、机、椅子、棚、エアコン、カーテン、ベランダなど
  - ・ 共用部分…食堂、自炊コーナー、トイレ、洗面所、浴室、図書コーナー、洗濯室など  
Wi-Fi完備
- ◆ 寮費等：
  - ・ 入舎金…100,000円
  - ・ 寮費…35,000円/月、寮室電気代(実費)



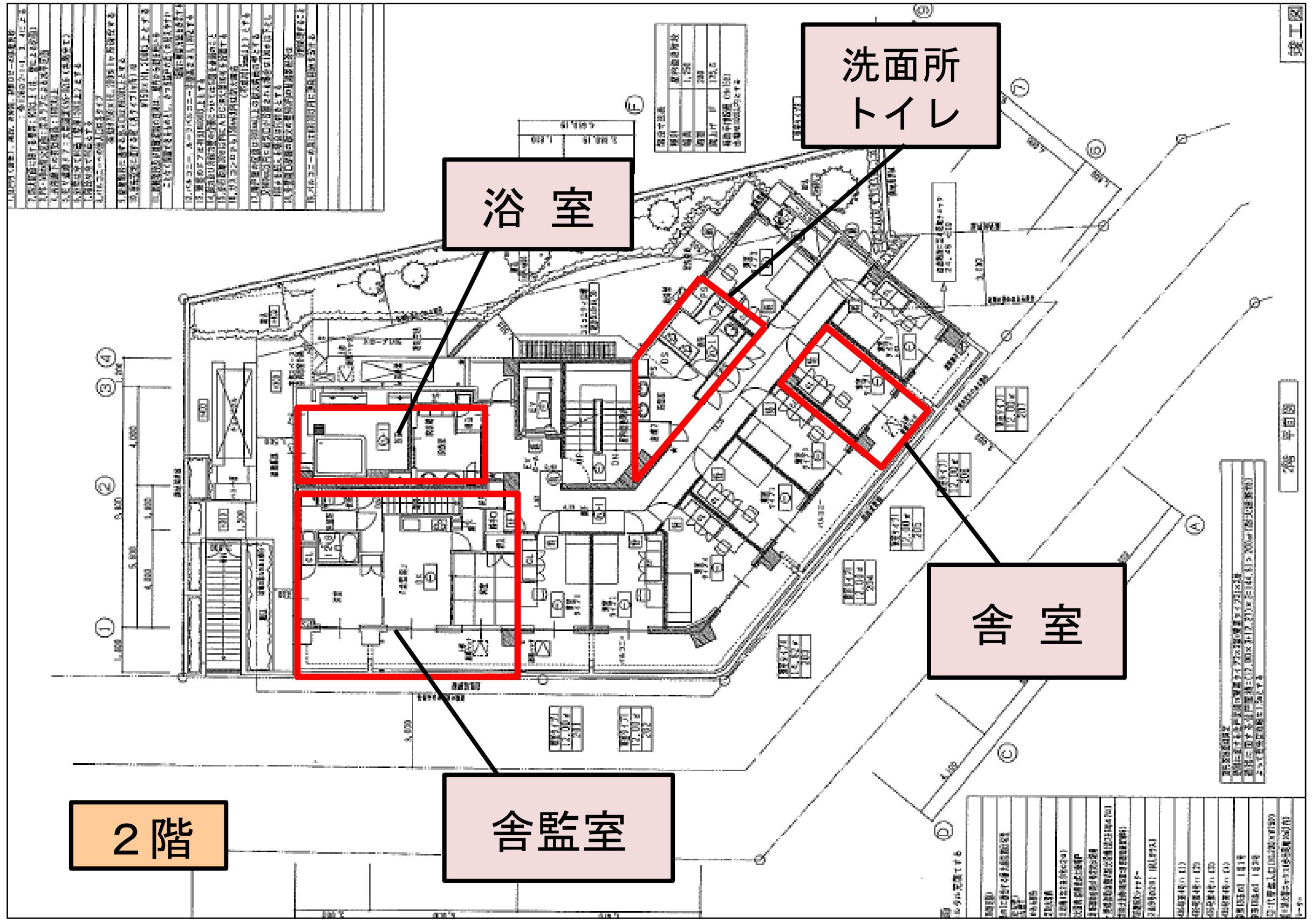
## ◆ 入舎資格

- ① 父母等が奈良県に現住所を有する男子学生であること  
〔令和7年4月1日時点で1年以上奈良県に住所を有すること〕
- ② 学校教育法の規定により設置された大学に入学すること

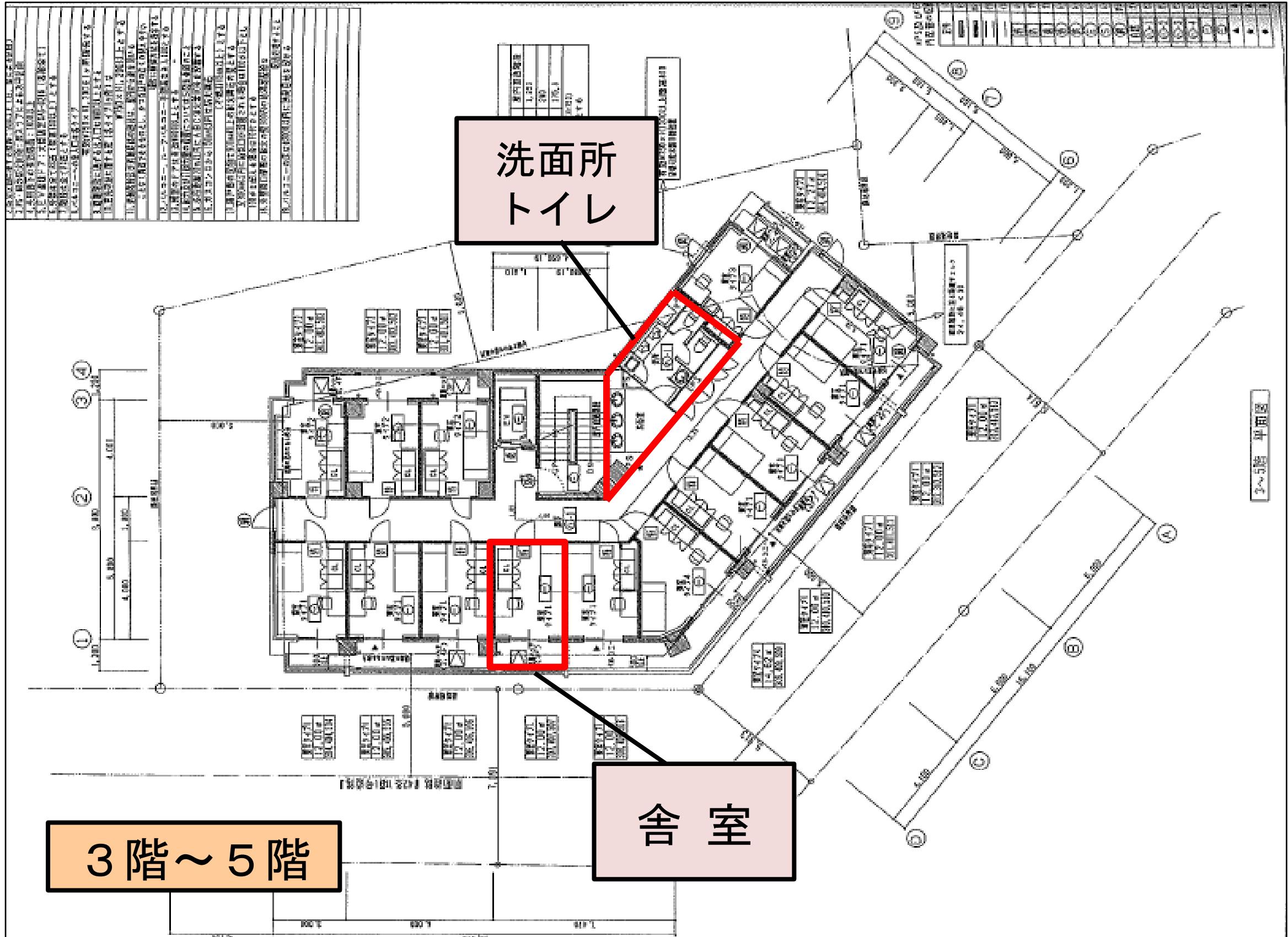
# 養徳学舎の概要



# 養徳学舎の概要



# 養徳学舎の概要



# 養徳学舎の概要



エントランス①



エントランス②



食堂①



食堂②

# 養徳学舎の概要



エレベーター



洗濯室

# 養徳学舎の概要



浴室①



浴室②

# 養徳学舎の概要



洗面所



トイレ①



トイレ②

# 養徳学舎の概要



廊 下



舎 室①

# 養徳学舎の概要



舎室②

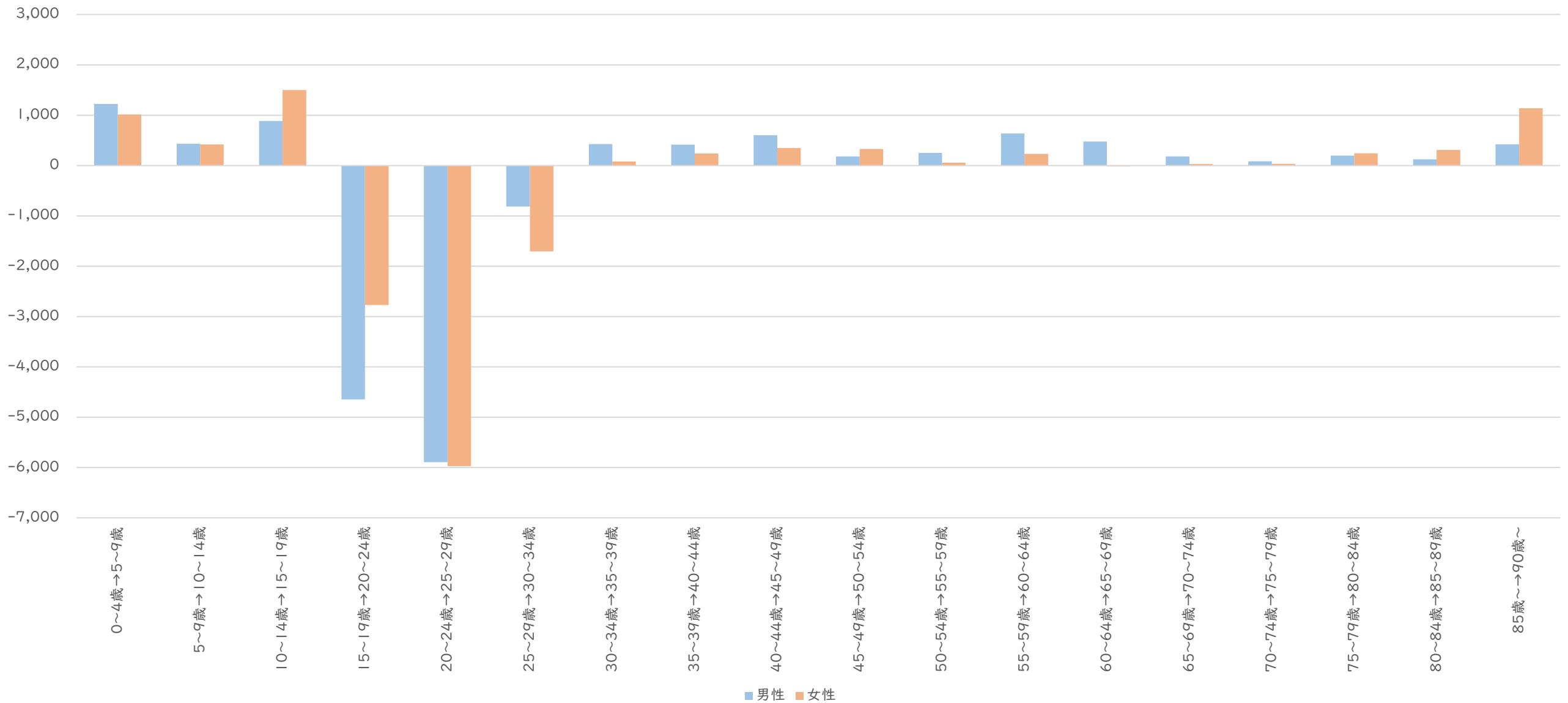


舎室③

# 若年層の県外への流出

男女ともに、10代後半から20代後半にかけて大きく減少しており、これは、進学、就職、結婚等のタイミングで、多くの県民が県外に転出しているためと推察されます。

年齢階級別人口移動の状況(2015年→2020年)



※総務省「国勢調査」より内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局推計

# 東京圏※への進学率

本県からの東京圏への進学状況については、建替検討当時の2006年と比較し男女ともに増加しています。また、進学者（男女）に占める女子の割合も、24.7%から39.2%へと増加しています。

	2006年		2023年	
全体 学生数	356人	➡	602人	246人増加
男子 学生数	268人	➡	366人	98人増加
全体に占める 男子学生の割合	(75.3%)		(60.8%)	14.5ポイント減
女子 学生数	88人	➡	236人	148人増加
全体に占める 女子学生の割合	(24.7%)		(39.2%)	14.5ポイント増

※文部科学省「学校基本調査」より

※東京圏は、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県を指す地域

# 他府県の県人寮

◆県人寮のある道府県は36道府県

◆県人寮のない都府県は11都府県

(宮城県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、三重県、京都府、島根県、徳島県、長崎県、大分県)

◆男子寮のみある道府県は20道府県

(北海道、青森県、福島県、茨城県、石川県、福井県、山梨県、長野県、静岡県、愛知県、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、岡山県、広島県、愛媛県、高知県、宮崎県、鹿児島県)

◆男女寮もしくは男子寮と女子寮のどちらもある府県は16県

(岩手県、秋田県、山形県、栃木県、群馬県、新潟県、富山県、岐阜県、滋賀県、鳥取県、山口県、香川県、福岡県、佐賀県、熊本県、沖縄県)

※令和6年1月奈良県調べ

# 養徳学舎活用検討会について

## 1. 設置目的

養徳学舎の施設の有効活用の観点やポテンシャルの高い立地条件等を鑑み、今までの機能に加えて、「東京で学んで、奈良に戻って活躍してもらえる人材」や「奈良に愛着を持ってもらい、奈良に戻らなくても奈良の発展に寄与してもらえる人材」を育成する施設としていくため、養徳学舎の活用方法について、幅広い意見を聴取することを目的として、養徳学舎活用検討会を設置する。

# 養徳学舎活用検討会について

## 2. 検討会スケジュール

会議	日程	内容
第1回 検討会	10月22日	①養徳学舎の現状 ②活用に向けた意見聴取
随時、委員意見聴取、アンケート実施※等		
第2回 検討会	1月 中旬	①活用案(素案)への意見聴取
随時、委員意見聴取等		
第3回 検討会	2月 下旬	①活用案の報告

※入寮生、高校生等に対するアンケートを実施予定。